

21 Nov.20 景観開花。

「土木におけるデザインとは」

篠原 修

## 1.土木と建築の歴史

### A.西欧

- ・ ヴィトルヴィウスの建築書一土木を含めて建築と総称。
- ・ 鉄の登場で建築から土木(構造)が分離、18、19世紀。それまでは石と煉瓦の構造。
- ・ 建築=意匠、土木=構造と役割で分かれた。常にペアで設計、対象は建物も橋梁も全て。

### B.日本

- ・ 恐らく戦国末からか、普請=土木、作事=建築。城郭建設では、お濠、掘割、石垣は普請(普請奉行)、建物は作事(作事奉行、次第に民間のチームへ)。
- ・ 明治以降、建物は造家(後に建築と改称)、それ以外は土木と対象で分けた(普請、作事の伝統か)。
- ・ 当初は意匠は造家、構造は土木と西欧的にペアで設計。
- ・ 建築に構造を導入一佐野利器。後に設備も。これで建築は自立(建築家、構造家、設備家)。一方の土木は構造のみで意匠が欠落。

## 2.土木のデザイン

### 1)戦前

- ・ いわゆるデザイン(意匠)がなされたのは橋梁のみ。
- ・ 日本橋;構造は樺島正義、麒麟などの装飾は建築の妻木頼黄。

復興橋梁;隅田川橋梁は田中豊、御茶ノ水橋は小池啓吉。聖橋は土木の成瀬勝武、意匠は京都タワーの山田守。

### 2)戦後

- ・ 昭和の終わり頃から景観工学のエンジニアがデザインへ  
[東工大] 中村良夫一岡田一天、佐々木葉、小野寺康、二井昭佳、  
[東大] 篠原修一中井祐、西村浩、平野勝也、星野裕司、西山健一、安仁屋宗太、崎谷浩一郎、新堀大祐、吉谷崇、西村祐人、井上大介(風致)、  
[他・土木] 吉村伸一、松井幹雄、高楊裕幸、椛木洋子  
[他・建築]  
[他・デザインなど] 大野美代子、南雲勝志、
- ・ エンジニア・アーキテクトの特徴(建築家と比較して)  
構造合理性、流行?一寿命。  
脇役<一>建築はいつも主役狙い?!。  
[ヨーロッパのエンジニア・アーキテクト] R.マイヤール、F.レオンハルト、S.カラトラバ